

外国語活動

【ICTを活用するポイント】児童生徒が音声に慣れ親しむ際に、本物の写真や音声に出合う授業。

子供の視点から

① 体験的に理解を深める姿

聞いた英語をまねして発音するなど、音声に反応したり、慣れ親しんだりする際、タブレット端末に保存した英語の音声に何度も触れることで音に親しむことができます。また、英語でのやり取りを録画し見直すことで、相づちやつなぎ言葉を用いる良さに気づくことができます。

② 興味・関心を生かす

身近な場所にある英語の文字や紹介したいものを撮影し、共有することで、興味関心をもって聞いたりやり取りすることができます。

教材の視点から

・慣れ親しんだ表現で伝えるために

例えば、Show and Tell等の発表の場面では、児童が紹介したいものを教室の外や自宅で撮影し、それを基に話す内容を考えます。スライドの順番を入れ替えたり、写真を加えたりしながら話す内容を再構築します。授業で、自分が作成したスライドを見ながら発表するので、伝えたい内容や既習表現を自然と想起することができます。

また、クラウドに保存することで、教室でも家庭でも発表スライドを作成できます。

英語に慣れ親しみ、楽しみながらやり取りする授業

問題解決の過程の視点から

① 言語材料や文字に慣れ親しむ

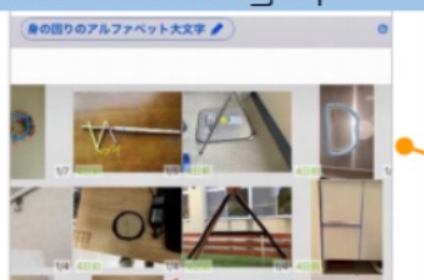
例えば、児童が撮影した「学校の中にあるアルファベット」を端末上で拡大し、友達にどこに表示されていたアルファベットなのかクイズを出し合いながら、文字の読み方に慣れ親しみます。身近な生活にある英語の表記に気づき、興味関心をもって読むことができます。

② 言語活動を行う「目的や場面」の設定

遠隔地や海外等の児童や英語話者とのコミュニケーションの場面の設定が可能になります。毎日来校できないALTとも、いつでもどこでもつながることができます。

StuDX Style (文部科学省より)

https://www.mext.go.jp/content/20210609-mxt_kyoiku01-000015515_js2.pdf



【学習支援ソフトによる共有画面】

実践報告 小学校4年生「学校の中にあるアルファベット」

アップデートしよう

① 英語の文字や形を視覚化し、児童の意欲を喚起する写真撮影機能の活用

② 児童が撮影した写真や調べた情報等を瞬時に収集、全体共有できる学習支援ソフトの利活用

③ 振り返りにおけるクラウドアンケートの活用

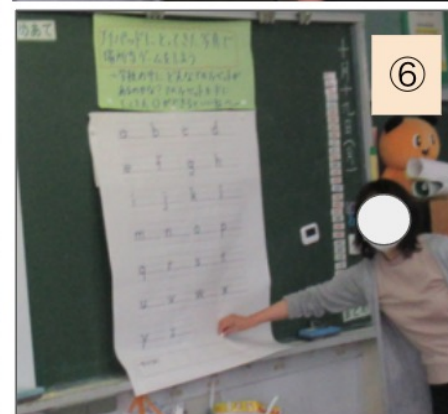
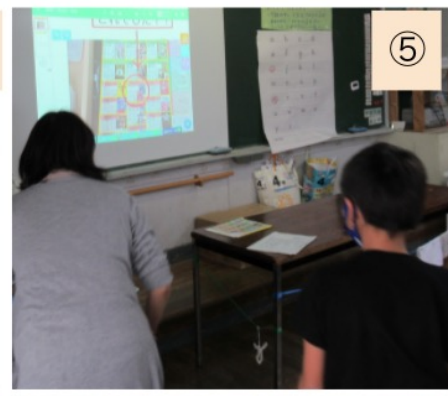
使用したアプリ

- ・授業支援クラウドサービス
- ・写真撮影機能

本時のねらい

学校の施設やもの書かれている、身近な生活にある英語の表記に気づき、アルファベットの形や文字の読み方に慣れ親しむことができる。

導入	撮影・送信	チャンツでアルファベットの音と形を確認する。写真①② 児童は端末で撮影してきた学校の中にあるアルファベットの文字の写真を教師機に送信。教師とその写真を使ってクイズを出し合うことを確認する。写真③	★外国語活動では、児童が楽しみながら英語に慣れ親しむために、身近にある英語の表記や語彙に気づき、英語ややり取りの話題に興味・関心をもって取り組めるように活用しています。
展開	全体共有	児童が撮影したアルファベットが校内のどこにあったのかクイズを出しながら、その文字の形を確かめたり文字を読んだりして、慣れ親しむ。写真④⑤⑥	
終末	アンケート	クラウドアンケートに振り返りを入力する。次時はアルファベットの色にも着目することを伝える。	



児童生徒の姿から

- ・アルファベットの文字の形や読み方に慣れ親しむ単元で、「学校の中にあるアルファベットを探そう」という課題を設定しました。
- ・児童は、前時までに学校内にあるアルファベットを探し、見つけたアルファベットを自分の端末で撮影し、その写真を教師機に送信しました。
- ・授業が始まると今日の課題を全員で共有し、まずはアルファベットの読みを復習しました。手の動作を加え文字の形を想起しながら練習しました。【写真②】
- ・教師は、授業支援クラウドサービスを利用し、全員から送信された写真を全体で共有しました。【写真③④】
- ・児童は写真を見せながら、撮影したアルファベットの文字が学校のどこにあったのかについて、クラスの友にクイズを出しました。【写真⑤】
- ・表記の場所や単語の意味を考えながら、見つけたアルファベットの文字の形を確認したり、全員で声に出して読んでみたりして、文字に慣れ親しみました。【写真⑥】
- ・児童は友がどんな場所でどんなアルファベットを見つけたのか、興味をもってクイズに参加し、その文字に親しみをもって読むことができていました。

授業者の先生から

- ・児童が興味をもってアルファベットの文字や英語の表現に慣れ親しむことができるように、身近な題材や興味・関心をもっている話題を扱うことで、苦手意識を感じている児童も楽しく授業に参加できるようにしています。

この事例のポイント

- ・端末を使って写真を撮影したり、文字の読み方を検索したりすることで、「自分が英語で伝えたい内容」をもって言語活動に取り組むことができる。
- ・クラウドを活用した授業支援ソフトを用いることで、自分の伝えたい内容を瞬時に共有できることに加え、友の考えや用いた英語から新たな表現に出会うことができる。